事例連載

## コミュニティービルダーの経営学

# 地域・住民・工務店

文・及川 洋樹＋編集部

コミュニティービルダー事例 vol.21

## えびすや（えびすや建築工房）［岡山市］

# 工務店から始まるまちおこし
# 空き家活用の民泊事業など計画

House de Organic」の勉強会が月に1回行われ、工務店の仲間が森安さんの取り組みを積極的に支援している。

**岡山市の西北に位置し、歴史的な街並みの面影も残す「足守」地域。この地で住宅事業を営む地元工務店・えびすや（えびすや建築工房、岡山市）の社長、森安章さんは、地元への熱い想いを胸に、本業のかたわら、精力的にまちおこし活動に取り組んでいる。その取り組みは、地元の人や工務店の仲間に支えられながら、まちおこし団体を設立し、空き家を活用した民泊事業の運営を具体化するまでに発展している。**

「学生のころから、まちをつくる仕事をしたいと思っていた」と森安さん。大学を卒業後は、プレハブ住宅会社に就職し、営業担当として働いたが、あまりにも供給側に都合のいい仕組みに「こんな住宅は売りたくない」と嫌気がさした。地元に戻り、家業の住宅設備機器の卸業を手掛けながら、リフォーム事業へと仕事の領域を広げ、満を持して「顧客が心から望む住まいをゼロから一緒につくる」新築を始めた。

### 環境と共生した<br>高性能住宅の提供めざす

新築を本格的に展開し始めたころから、街並みを強く意識。建築家とコラボし、「コーポラティブハウスの戸建て版」とも言える、周囲の街並みや自然景観と調和する住宅を建築し、岡山市のまちづくり賞（住まい部門）を受賞した。森安さんは、こうした経験を踏まえ、「環境や隣人と共生する心地いい暮らし方」に対する自分なりの考え方を確立していった。

ところが、景観や街並みとの調和を重視する家づくりを進める一方で、暖かさや快適さを生み出すベースとなる住宅の性能をおろそかにしがちだったことを思い知らされる出来事が起きた。築200年という妻の実家の建て替えを手掛けた後、義母に住み心地を聞いたところ、返ってきた「（建て替え前の家と）大して変わりゃせんね」という答えに大きなショックを受けた。

そこで森安さんは一念発起、周囲の環境と共生しながら、高気密・高断熱で省エネ性能に優れる「高性能住宅」を提供していくことを決意。設計や施工の学びを深めようと、パッシブハウスレベルの住宅のつくり手がコアメンバーとなり、全国各地の工務店でつくる勉強会組織「House de Organic（はうす・で・おーがにっく）」への参加を決めた。「僕は、いつも人との巡りあわせに恵まれているんです」と笑顔で語る森安さんは、その直後、「ドイツにあるようなパッシブハウスを建てたいんだ」と望む顧客と出会う。うれしいことではあったが、施工経験もないことから、引き受けていいものか迷った。が、思い切って同組織の仲間（香川県内）に相談したところ、「ゴールデンウィークのど真ん中で、急な依頼にもかかわらず、顧客と一緒にモデルハウスを訪れることを快諾してくれた」。そこでの体感と仲間の説明に感動した顧客は、「このレベルのものをお願いしたい」と森安さんへの依頼を即断。。森安さんは、この仲間の協力を得て、パッシブハウスに近いレベルの高性能住宅を無事に完成させた。

以来、えびすやでは、同水準の性能を標準とする。森安さんは「一度、顧客が心底満足してくれる性能のものを建ててしまったら、つくり手として、もう後戻りはできないですね」と笑う。

歴史的な景観を今に伝える足守の街並み

まちおこし活動の一環として行ったワークショップで地域資源を掘り起こす

「あしもり遊学舎」の拠点の古民家で期間限定で「そば店」を実験的に運営

別の地域で土地を探していた顧客が、「足守って面白そう」と候補地を変更して足守地域に建てた住宅

生まれ育った足守への思いを語る森安章さん

### 家づくりから<br>元気なまちづくりへ

住宅のつくり手として、「人との縁によって成長させてもらってきた」と感謝する森安さん。それを今度は、生まれ育ったまちとそこに住む人たちに還元することができないかと考えるように。森安さんは「よい住宅だけでなく、豊かな暮らしを地元に広げたい。まちを元気にする、まちおこしをしたい」という思いのままに、まずは地元の人や工務店の仲間など、様々な人に一から相談するところから始めた。すると人が人を呼び、集まって話をするうちに、徐々にまちおこしの方向性が見えてきた。

活動をスタートしてから約2年、現在は、まちおこしの活動組織（一般社団法人）「あしもり遊学舎」の代表理事として、地元を活性化する様々な事業を具体化する段階にまでなった。会社の近くにあり空き家となっていた古民家を取得し、コミュニティースペースとして独自イベントを開催しながら、地域に対しても開放。ゆくゆくは、民泊やカフェなどの運営拠点とする計画だ。このほかにも取得した地区内の空き家については、岡山市の補助を受けて改修し、民泊事業を行うことが決まっている。

自然に仲間とつながり、人の輪が広がっていく。森安さんは「すごくありがたいことだし、まちおこしはやりがいもあって楽しいです」と、うれしそうに話す。昨年、岡山市内の一宮地区で土地を探して住宅を建てようとしていた顧客が、打ち合わせを重ねる中で森安さんから足守のまちおこしの話を聞くうちに、「なんだか足守って面白そうだね」と候補エリアを変え、最終的には、あしもり遊学舎の目の前の土地に新居を建ててくれた。「まちおこしをしていると、こんなことも起こるのかと驚きました」と森安さんは笑った。